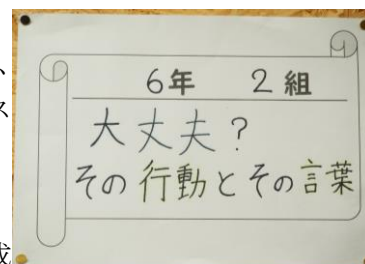


I 実践

1 いじめノックアウト運動

- (1) 児童会の事務局委員会が中心になって、いじめについて考え、いじめをなくすための標語・スローガン作りを企画し、各クラスでいじめ撲滅のための標語・スローガン作りを行った。

特別の教科道德の時間や学級活動の時間に、いじめに関する題材などを取り扱い、話し合いを行った。また、各クラスが作成した標語・スローガンを全校に放送したり、昇降口のモニターに映したりした。



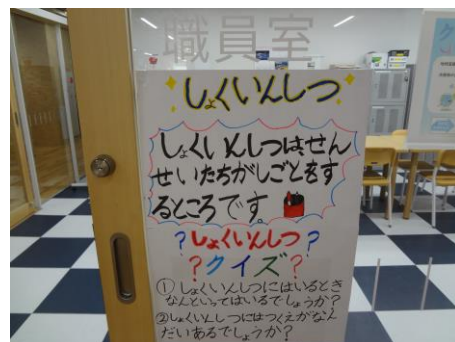
2 4年生の総合的な学習の時間 テーマ「

- (1) ひたちの森ガーデンとの交流学习

学区内にある高齢者介護施設「ひたちの森ガーデン」のお年寄りの方のために、カレンダーや壁飾りなどを作成した。

- (2) 異学年との交流学习

1年生がスムーズに学校探検を進められるように、リーフレットや掲示物を作成した。



3 朝のあいさつ運動

児童会の事務局委員会の児童が中心となって、朝（6月と11月の2回）、昇降口に立ち、さわやかマナーキャンペーンを実施した。

日高市民自治会の方と共に校門や西門付近に立ち、あいさつ運動を展開した。



4 いじめなど人権に関する実態調査（アンケート）の実施

6月から学期ごとに実施し、児童の実態を細かく把握するようにした。アンケートの結果から、悩みや困り事のある児童には、個別面談をしていじめの早期発見・早期解決に努めている。

5 アニメ「めぐみ」の視聴

各学級で視聴し、拉致問題への理解促進を図った。

6. 成果

- (1) 標語・スローガン作りや学級での話し合いを通して、いじめの撲滅に対する意識が高まった。
- (2) 各教科・領域での学習や行事では、計画の段階で相手の立場（高齢者や下級生）を考えながら自分たちのできることは何かを考えることができた。

(3) 朝のあいさつ運動では、地域の人との触れ合いの中で、自分達がたくさんの人に見守られていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができるようになった。

Ⅱ 今後の課題

- 1 各学年のめあてに沿って、さらに充実した人権教育の推進を図っていきたい。
- 2 コロナ禍の中でも、異学年交流の充実を図り、小学校全体として思いやりの気持ちを広げていきたい。